

2018年度 JASO通常総会の報告

平成30年6月7日、日中友好会館ホールにて、2018年度通常総会が行われました。議決権総数：163、出席者：50人（内委任状60名）。総議決権数1/2以上で総会が成立し、以下3つの議案事項は全て承認されました。

- 1号議案 2017年度事業報告
- 2号議案 2017年度決算報告の件
- 3号議案 役員を選任の件

◇安達和男理事長からのあいさつ

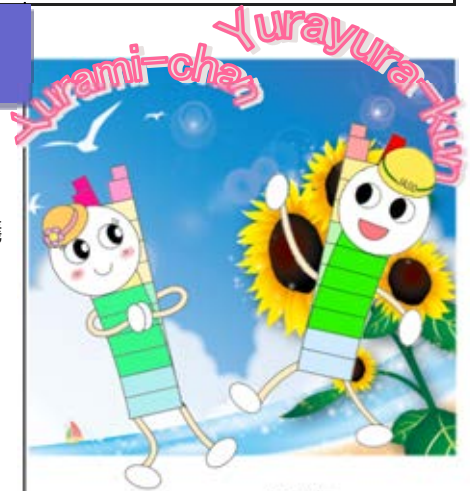


JASO理事長 安達和男氏

JASOは2006年に、杉並区を皮切りにAD派遣、簡易診断、精密診断という耐震化支援事業を始めました。しかし、未だ診断を行っていない建物、診断を受けたが改修設計を行っていない建物、設計を行ったが改修工事を行っていない建物は数多く存在しています。そして残っている建物は、それぞれ耐震化を阻害する難しい問題がある物ばかりです。これまでも、図面の無い建物の図面復元、改修工事の概算算出等の支援ツール等を、発信してきました。さらに今回、段階的補強の提案を行いました。診断以降進まない補強へのハードルを下げるために、全体的な視野の中で、できることから補強するという現実的な手法です。また、新たに補強設計支援室を設けました。ここで、会員各位がおこなう補強設計や監理について相談を受けていきます。更に、デザインレビューを行うJASO補強設計支援制度を設けました。一方、減災の観点において東日本大震災や熊本地震の被害調査をもとに被災後の復旧についても取り組みをはじめました。被災後の手順をまとめた「マンション地震災害・事前復旧計画タイムライン」のパンフレットを発行しました。

今年の決算は予想以上のものとなりました。これはひとえに会員各位、関係者各位の活動の結果であり、感謝しております。しかし、AD派遣、簡易診断、精密診断、ともに減少傾向にあることは変わりません。収入は次第に減っていくと思われます。今後も支出の削減が必要です。JASOの耐震化促進の活動に必要な費用を持ち続けられるよう今後も努力していきます。

JASOは来年、NPO設立の15周年を迎えます。今年は、新たな市民向けの冊子の発行や被災後の雑壁の復旧工法の研究等に取り組んでいきます。いつ来てもおかしくない災害に備え、暮しつづけられる社会づくりに少しでも寄与できるように、今年も会員各位、関係者各位のご協力とご支援をお願いして、ご挨拶といたします。



目次

総会報告	1
総会講演会報告	2
協力会総会報告	3
東北調査報告	4
東海支部活動紹介	5
近畿支部活動紹介	6
巨匠探訪	7
お知らせ&スケジュール	8

総会 講演会報告

平成30年6月7日(木) 15時~17時
日中友好会館 大ホール

【第1部：基調講演】

巨大地震発生前に…直下型地震災害や火山災害について（（一財）地域地盤環境研究所
北田奈緒子氏）

関西から地盤工学の先生をお招きいたしました。地球のプレートと地震発生要因の関係や、地震の規模や大きさに関する基礎知識をはじめ、日本列島近海の地盤構造を、盥（たらい）やお椀、洗面器などに例えながら、地震波の伝搬イメージなどをとてもわかりやすく、柔らかくお話いただきました。波形の見方や断層の分布などについても触れていただき、今後予測される大地震については歴史的なデータからの予測は勿論のこと、活火山との関係についても触れていただきました。また、新しい見方のひとつである「マントルブルーム」についてもご紹介いただきました。限られた時間でしたが、興味深いお話をたくさん語っていただきました。



北田奈緒子氏

【第2部：JASOパンフ紹介】

JASOでは市民に向けたパンフレットを数多く発行しておりますが、最近完成した2つのパンフレットをご紹介します。

①マンション地震災害事前復旧計画タイムラインについて

（今井章晴氏）

東日本大震災や熊本地震の経験を踏まえ、被災後にマンションに住み続け復旧に向かうために、被災したマンションの管理組合が行う事を時系列でまとめました。平時からの備えについては、診断実績が豊富なJASOならではの視点をチェックポイント形式でまとめ、また被災後における専門家の活用方法などについても触れています。



今井章晴氏

②あきらめないで！大地震のとき命を守る段階補強（三木剛氏）

様々な事情でI_s値0.6を満たす耐震補強が行えない建物所有者や管理組合に対し、大地震時における建物への被害が致命傷とならず、被災後も使い続けられるようにという思いから生まれた「段階的な耐震補強」についてまとめました。JASOは耐震化に取り組む市民を応援し続けます！



三木剛氏



講演会の全景

JASO協力会総会報告

平成30年5月23日 JASO 2階会議室

報告 協力会 小山博司

徳田会長、畑中事務局のもと、協力会メンバー15名、JASOメンバー2名の方々が参加されました。徳田会長のあいさつの後、恒例のボジョレ会や懇親会などが議題に上がるとともに今年度の役員を選出では会長は引き続き留任し、副会長は(株)ベンの鈴木氏が退任することで後任に建装工業(株)の館林匠氏が承認されました。また、新役員として株式会社エフ・アイ・ティーの矢幡秀介氏が承認されました。

なお、長きにわたり協力会事務局を通じてJASOの活動にご尽力されてきた畑中篤氏が退会することになりました。総会では、事務局担当会社の選出はできませんでしたが、JASOと協力会と調整の上後日ご報告したいと思います。

JASO中村常務理事からは、JASOの会員と協力会の交流を図るために技術交流会などを開催するなどの提案がありました。

協力会各社は施工会社・材料メーカー・商社・設備関連会社など、耐震補強や大規模修繕などに使っていただける商品や技術を持った会社が多数ありますので、是非お気軽にお見積りなどのご用命をいただければ幸いかと存じます。

JASO協力会 理事は以下の通りです。

留任	会長	徳田 精久	アサヒボンド工業(株)
留任	副会長	副島 勝義	(株)セントラル技研
新任	副会長	館林 匠	建装工業(株)
留任	役員	遠藤 等	(株)E&CS
留任	役員	小山 博司	(株)東京ソイルリサーチ
留任	役員	竹田 喜一	須賀工業(株)
留任	役員	三條場 信幸	エスケー化研(株)
留任	役員	大根田 達也	矢作建設工業(株)
留任	役員	境谷 勉	化研マテリアル(株)
留任	役員	矢部 裕之	(株)ケー・エフ・シー
留任	役員	大田 隆亮	宇部興産建材(株)
新任	役員	矢幡 秀介	株式会社エフ・アイ・ティー

第23回R&Rリフォーム&リニューアル建築再生展

報告 三木剛

2018年5月30日～6月1日、第23回リフォーム&リニューアル建築再生展（通称：R&R展）が開催されました。JASOでは主催者組織委員であるテツアダー出版のご好意により、毎年1コマお借りし出展しています。今年の展示ではJASOの各委員会からの活動成果として、以下のものをパネルにし展示しました。

- マンション地震災害事前復旧計画タイムライン
- あきらめないで大地震のとき命を守る段階補強

また、JASOを紹介する上で「人の暮らしに安全を(パンフレット)」も展示用パネルにし、JASOの活動を理解して頂くよう努めました。その上で各委員会が作成したパンフレットを置き、来場者に自由に持参頂くようにしました。

今後、展示会や講演会等でも同じように展示し、JASO広報の一環とします。広報委員会ではパンフレットなど成果物を展示用パネルにし、JASOがどのような組織でどのような活動を行っているか、積極的に対外向けに発信していこうと考えています。



第23回R&R展 JASOブースの様子

第15次 東日本大震災による被害状況視察のご報告

報告：篠崎玲紀

2018年5月1日、2日の2日間に渡り2011年3月11日に起こった東日本大震災による被災地の復興状況をJASO第15次調査団メンバーで視察に行ってきました。地震災害から今年で丸7年が経過していますが、JASOでは震災に対して長期にわたって関わり続け、今回で15回目の視察となりました。

今回も昨年同様に宮城県、岩手県を中心に復興の状況を視察しました。1日目は石巻市、女川町、南三陸町、気仙沼市 2日目は陸前高田市、大船渡市、釜石市、山田町、宮古市を視察しました。

今回の視察では主に災害公営住宅の状況確認を行いました。昨年の視察に比べ住宅の建設が各地で進んでいるように見受けられ、仮設住宅の数が減少していました。災害公営住宅では鉄骨造のマンションも建設され、高齢の方にも住みやすい設計がされており、玄関ドアも首都圏では珍しい引き戸、バルコニーから車イスのまま入室出来る工夫もされ、バリアフリー対策

も充実していました。またマンションの一部にコミュニティスペースを設計し、住んでいる方の憩いの場として活用している公営住宅もありました。

道路整備は順調に進んでおり、昨年との違いは大型ショッピングセンターや商業施設が多く建設され、少しずつではありますが生活環境が変化している様子が見受けられました。また、釜石市ではラグビーW杯でも使用される予定の釜石鶴(うのすまい)住宅復興スタジアムが建設中でした。スタジアム完成が釜石市の活性化に繋がるのではないかと考えております。

災害前までは住宅地があった地域に公園等の施設が建設され、住宅地は山を切り崩した丘の上に建設されている地域が多く見られ、生活環境も大きく変化しています。

まだ津波の爪痕が残り復興には時間がかかると思いますが東北の方々には力強く復興に対して歩んでいる印象でした。(篠崎玲紀)



山田町
山田中央団地
災害復旧住宅



女川町
志津川東住宅
玄関ドアが引き戸になっている



釜石市
スタジアム建設
ラグビーW杯で使用する予定



第15次調査団集合写真

「耐震診断、改修へ向けてのマンション住人への雰囲気づくり」

報告：東海支部 野田泰正

耐震診断および改修について管理組合で説明を行いますと大半の方は自らのことと言うより他人ごとのように係わりたくないという気持ちが伝わってきます。

愛知県防災局防災危機管理課発行の防災・減災ガイドの「災害を今に伝える史跡など」の中での篠島の「島弘法」の説明に、貞観4年頃の大地震で大陥没との記事があります。篠島は愛知県知多半島の先端にある外周8キロの島で、伊勢湾と三河湾の境にあります。歴史は古く縄文時代の貝塚やそれ以降の古墳もあり、一時は伊勢神宮の所領地となりました。現在島の一部が神宮領で鯛等海産物の奉納が続いており毎年ニュースになります。対岸の伊勢へ海路30km程度で、伊勢神宮の20年ごとの式年遷宮に合わせ神宮の古材でこの島の神社も同時に建替えを継承しています。

名古屋大学の減災館に行き教えていただいた「復刻 日本地震資料 明石書店」の貞観時代を見ますと陸奥国の地震、富士山の噴火、全国地震、山の噴火、興福寺の塔の震動等々ほぼ20年間に渡る被害記事がありました。京都地震の記事が毎年のように記載があり当時の異常な状況が推測されます。篠島の記事は不明でした。

東日本大震災のあと、貞観時代の記述が多数見られましたが東海地域まで大きな影響があったとの記事は見当たりません。また篠島は昭和東南海

地震、南海地震や特に島に近い震源の深溝断層の動いた三河地震とも家屋の倒壊被害は生じていないとの報告があります。

管理組合の説明では、耐震診断と改修への気持ちを高めるために「住まい近くの公園隣の石碑は、かつて当地は津波、高潮、火災等の災害で多数の犠牲者が出たために先代の方々の忠告の信号です」といった具体的事例に訴える方法がとられています。また一例ですが、地盤形成の成立ちの話題の多いテレビ番組のプラタモリでは名古屋地域については今年2回の放送がありました。あるマンションの周辺が放送された際は改修委員会の席で当地盤はかつては海で地盤が良くないと言った説明がなされ全員納得し、この放送内容のお陰で話が進みました。ただ、このあとの押しが大事だと思います。

最近石碑等は管理の都合によるのか当時の設置場所ではなく役所の庭の隅や公園の端等目立たない場所にあることが増えています。これでは防災、減災上問題と考えて愛知県は上記のガイドを出版し啓蒙しています。

構造担当者は比較的建築関係者のいる企業相手に話すことが多く専門用語を使用することも多いのですが、一般の方にも災害の大変さを分かっていたくためには易しく説明する必要も感じています。



(上)篠島の八王子社



(下)案内図



(上)ガイドパンフレット

近畿支部 状況報告

近畿支部長 藤本 健

近畿支部は、個人と法人会員を併せて10余名の会員から成り、JIA近畿支部会議室で毎月支部運営委員会を開催しています。JASO近畿支部として自治体などへの対外的な活動を開始したのが他の耐震関連諸団体より遅かったこともあり、現時点では耐震診断などを受託できる状況には至ってはならず、セミナーの開催や無料相談会を実施することと各自自治体などに対する訪問活動などが活動の主業務となっています。

昨年度の当初（2017年5月）に掲げた近畿支部の事業計画とその後の1年間における実際の実施内容を表.1に示します。本年度については、これらの反省を基に各自自治体との情報交換をより活発化し、近い将来自治体からJASOに対しての具体的業務委託が目指せる環境・態勢を作ることを目指して活動したいと考えています。

2017年度における近畿支部の事業計画とその実施内容

事業計画	実施内容
前文	将来における事業活動の実施を目指して、行政などへのJASOの認知度の向上を図るとともに、内部体制の強化を行うべく、以下の諸策を行う
1	近畿支部運営委員会における情報交換と各種企画
2	各自自治体の耐震関連施策の定期的情報収集と他の関連諸団体との情報交換と連携・協働の模索
3	行政機関などと連動してのマンション管理組合対象のセミナーの開催および無料相談会の実施
4	JASOの目指す総合耐震化の重要性を訴えるJASO近畿支部PR用パンフレットの作成
5	マンション管理組合からの耐震診断業務などの受託に向けての活動を行う
6	会員増への努力

巨匠探訪

山田周平氏

今回は、現在JASO理事および簡易診断審査会の委員長を務めて頂いており、初代広報委員長であった山田周平氏にJASO会議室にて、お話を伺いました。

御出身は京都府京都市で、1938年の戦前生まれですが、空襲が少ない京都という土地柄か、戦争に対する記憶はあまりないとのこと。小学生の頃は夕方まで遊びまわり7つ上の兄に家に連れて帰されるといった活発な面があった一方、元々は口下手で、教師の推薦により、6年生の時に生徒会長に立候補するなどにより徐々に人前で話すことに抵抗がなくなっていくそうです。

建築に関わるきっかけは、建築雑誌などにより都市計画に興味を抱き、特に丹下健三先生の東京湾上の海上都市計画に感動し、この先生に教わりたくて東京大学の入学を目指し、晴れて東京大学工学部建築学科に入学したそうですが、いざ入学し憧れの丹下先生の講義を受けてみると、自分の思い抱いていた内容とは異なり、徐々に都市計画の興味が薄れていったそうです。そのようななか、もともと幾何学など数学が好きだったこともあり、梅村魁先生の講義における構造力学が非常に明快で、徐々に構造に興味に移り、研究室は仲威雄先生、加藤勉先生のところで鋼構造を中心に学び、平行しコンピュータのプログラミングを独学で学ばれたそうです。就職は1965年、超高層建築に必要な振動解析が出来ることもあり、三菱地所に入社、大型コンピュータを使用し、自身で作成したプログラムのもと振動解析を行いながら設計したそうですが、当時は、現在のようなパソコンが普及した時代とは異なり、大型コンピュータを借りるのも非常に高価な時代で、料金が安い夜間に解析を行っていたそうです。その後、技術開発室に配属されコンピュータソフトの開発にも従事し、定年退職となる1998年まで三菱地所に所属しました。思い出が

深い物件として、1969年八幡製鐵と富士製鐵との合併に合わせて建設された新日鉄ビル、構造総括として携わった1978年の池袋サンシャインシティ、コンペでS造35階建てだったプランニングをSRC造25階建てに変更した1983年の神戸ポートピアプラザ、制振・風解析などの特殊技術の支援を行った1991年の横浜ランドマークタワーを挙げられておりました。

JASOには杉並区のAD派遣業務が始まった2005年頃入会されたそうで、JASOの印象として、他の団体とは異なり、意匠・構造・設備の会員らが、一緒に仕事をやっていこうという良い雰囲気を感じるとのことでした。

また、JASOに限った話ではなく、今の構造設計者は意匠設計者らに自分の意見を言わない大人しい印象があるが、構造設計者は自分の意見を通す説得力をもたなければならず、そのためには構造の原理を理解しなければならないと御助言を頂きました。

今後共、益々の御活躍、また私のような若手構造設計者への御助言を宜しくお願い致します。

(鈴木 基史)



JASO会議室で取材に応じる山田氏

リーフレット
作成報告

 段階的耐震補強のリーフレット発行
耐震段階補強委員会

いったん大規模地震が発生すると多くの居住者が被災することが懸念されるマンションでは、その備えとして早急な耐震化が求められています。しかし、多大な改修資金の問題や補強が一部の区分所有者に負担がかかるなど、改修に向けた合意形成の難しさから耐震化が中々進んでいないのが実態です。

NPO法人耐震総合安全機構（JASO）は、これらの問題を緩和し、当事者にとって無理なく耐震化を進めて行くことのできる耐震化手法として段階的補強を提案しています。

JASOが提案する段階的補強とは、マンションのピロティ部などの共用部で合意形成は比較的しやすいのですが、地震で致命的な被害を発生させる恐れがあるところから補強を始め、管理組合員全体で耐震化への理解を深めながら全体の耐震化へと進んでいく耐震改修方法です。

この度、JASOでは段階的補強のメリットなどを一般向けに解りやすく紹介する啓発リーフレットを作成し、東京都をはじめ都内の自治体などに配布しました。



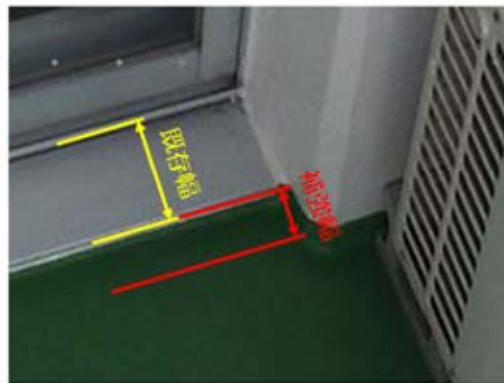
2018年 JASO行事スケジュール

8月	21日	(火)	アドバイザー会議 13:30~
9月	18日	(火)	アドバイザー会議 13:30~

協力会からのお知らせ(広告)

“塗って耐震” 住まいながらの耐震工事
サイド・ポ・スト工法
建防災発第16022号
～耐震工事の歴史を変える耐震工法～

施工事例



- そで壁付き柱を補強し強度を上げる工法
- 目隠らし・あと施工アンカー不要
- 住まいながらの工事が可能
- 施工後の見た目が変わらない
- 他の工法とコラボレーション可能



サイド・ポ・スト工法についてのお問合せは
TEL 03-5952-0226
FAX 03-5952-0230
<https://www.sarwa-alumic.com/>



営業種目：玄関扉・アルミサッシ・手摺工・耐震工事
会社概要
【本社】
〒170-0005
東京都豊島区南大塚3-40-5 三和ビル
【茨城工場】
〒300-3501
茨城県結城郡八千代町塩本268